

The Rotary Club of Sapporo Odori Park

札幌大通公園ロータリークラブ
ライラック通信(2008/9/29号)

会長 大坂忠 幹事 高橋宏

第315回例会報告(2008年9月22日)

- ・ほっとパーティーでした。
- ・参加者は4名しかおりませんでした、楽しい時間でした。

第316回例会予定(2008年9月29日)

- ・新世代卓話(旦尾・長谷川委員)

第317回例会予定(2008年10月3日)

- ・街頭献血活動(場所:ソニービル前,午後1時~午後5時まで,12:30集合)

環境問題基礎知識(第10回:植林の必要性とその限界)

東南アジアの森林減少の原因は伐採によるところが大きく、実は日本がA級戦犯と言えるのかもしれませんが。

日本は1960年代までは木材を自給自足できていましたが、高度経済成長時代を迎えて不足し始めたため、安価な輸入木材に頼らざるを得なくなり、フィリピン、インドネシアなどから大量の木材を輸入するようになりました。1990年代以降、輸入相手国がマレーシア、パプアニューギニアなどに変わったものの、この状況は現在も続いています。

もちろん、植林の試みも行われています。しかし、減っていく熱帯雨林が広葉樹なのに対し、人工林での植林はスギやヒノキなどの針葉樹が中心です。なぜ針葉樹が中心になるのかというと、短期的に見れば、二酸化炭素を吸収する能力は、広葉樹よりも針葉樹の方が高いと言われているからです(林野庁「森林・林業白書(平成16年度版)」/林野庁業務資料)。

しかし、効率のみで、もともと広葉樹が中心だった自然林を、針葉樹が中心の人工林にしても良いのでしょうか。スギ花粉症の蔓延は、我々が招いてしまったものといえなくもありません。